

we

2003年秋季号(通巻55号)

発行:財団法人 豊川市国際交流協会

編集:ニュースレター部会

〒442-0878 豊川市新道町1丁目1-3 勤労福祉会館内

0533-83-1571 FAX0533-83-1581

(年4回 5・8・11・2月発行)

ホームページアドレス <http://www.yui.or.jp/tia/>

メールアドレス tia@yui.or.jp



ワールドショット 『思い出の一枚』

● ブダペストの妖精たち

蔵子町 尾崎年昭



ハンガリーの首都ブダペストは、ドナウ川を挟んで、丘側のブダ地区と平地のペスト地区が一つになって、発展した都市である。ドイツに源を発するドナウ川は、市の中央を北から南へとうとうと流れ、ブルガリア、ルーマニアを経て黒海に流れ込む全長2,850kmの大河である。

晩秋の午後だった。この写真は、ブダ地区の丘にそびえるマーチャ・シュ教会を訪れたときの一コマである。ゴシック調のカトリック教会で、ステンドグラスが美しく、夜はパイオルガンによるミサが行われる。おりしも色とりどりの服をきた少女たちが教会から出てくるところだった。彼女たちは、教会で国語、家政学、医学などを学んでいるという。ブダペストには、スパと呼ばれ

ている室内温泉が32か所もあり、このお湯を利用して、ガンの治療を研究している大学病院や医学研究所が多い。

「あなたたちは、お医者さんになりたいですか？」

通訳を介して尋ねてみた。

半数の少女はうなずいたが、残りの少女は次のように答えた。

「毎日、スパで筋肉をほぐして、新体操の特訓をしているのよ。オリンピックで金メダルが欲しいから」

夕暮れが迫って、ドナウ川に架かる橋がライトアップされ、なぜか郷愁を誘った。

手ごわい妖精たち。でも、私に向けた愛くるしい笑顔は、今でも忘れることができない。